

# パートナーへの暴力は 子どもの心も傷つける

近年、暴力や育児放棄などが原因で子どもが大きな影響を受けた、という悲惨な報道が増えています。中には、幼くして命を落とす子ども。こういった事態の背景には、DV<sup>※1</sup>(ドメスティック・バイオレンス)と呼ばれる家庭内での暴力や攻撃的行動が深く関わっています。

【問い合わせ先】子育て支援課 ☎0968(25)7214

全国の児童相談所による児童虐待相談対応件数は平成30年度で15万9850件と過去最多を更新し、虐待を受けた児童の数も年々増えています。身体的虐待、性的虐待、心理的虐待とネグレクト(身体的・精神的放置)の4つの種類で虐待を受けた件数を見ると、

## 別々の問題ではない 児童虐待とDV

「私は元夫から暴力を受けてきました」。過去のつらい経験を話してくれたのは現在、菊池市ひとり親の会の代表を務める松本美幸さん。「おびえている子どもたちにもいつか被害が及ぶのではないかと毎日不安でした」。子どもにも大きな影響を与えるDV。近年、児童虐待との強い関わりが指摘されています。

## 「いつか子どもにも 被害が及ぶのではないか」

言葉による脅しや子どもの目の前で配偶者や家族などに暴力を振るう面前DV<sup>※2</sup>などの心理的虐待が全体の約70%を占めています。この割合からも児童虐待とDVが密接な関係にあることが伺えます。DVを目撃した子どもは、不安や恐怖などのストレス下に置かれることで体や心にさまざまな影響が出る可能性があります。何より暴力の矛先がいつ子どもへ向かうかわかりません。児童虐待とDVは別々の問題ではなく、一体的な問題として捉える必要があり、早急な対策が必要です。

## 重大な人権侵害

児童虐待は子どもの心身の成長や人格の形成に重大な影響を与え、次の世代に引き継がれる恐れがあります。恋人や配偶者に対するあらゆる暴力も含め、重大な人権侵害です。今年4月に施行された改正児童虐待防止法・改正児童福祉

## キーワード

### ※1 DV「ドメスティック・バイオレンス」(Domestic Violence)

配偶者や恋人など親密な関係にある、またはあった者から振るわれる暴力のこと。暴力には身体的暴力だけでなく、精神的暴力なども含まれる。

### ※2 面前DV

子どもの目の前で配偶者や家族に対して行われるDVを指す。児童虐待防止法が平成16年に改正され、心理的虐待の一つとして認定された。

法でも、親権者や同居人などによる体罰の禁止が明確化されました。児童虐待やDVは家庭内で起きることが多く、発見しにくいことが課題です。市では今年新たに家庭児童相談、女性相談などを行う専門の部署として子育て支援課内に「こども・女性相談係」を設置。この係を中心に関係機関と連携を進め、児童虐待やDVの発生予防、早期発見、早期対応につながるよう取り組みを進めています。



特集 児童虐待とDV

# ずっと笑顔で いられるように

「お母さんがうれしいと私もうれしい」「お母さんが悲しいと私も悲しい」  
周りにいる人が笑っていないと、子どもも笑顔になれません。  
その笑顔は本物ですか。  
あなたのそばの人は笑っていますか。  
大切な人を守るために、  
そして何より自分を大事にするために。  
ちよつと立ち止まって、考えてみませんか。

松本さん親子

「いつも娘が学校や友達のことを楽しそうに話してくれるのがうれしいです」





菊池市ひとり親の会では、近隣の市町の会と合同で食育のイベントや日帰り旅行などを開催

「お母さんが殴られているのは  
被害を受けていた時のことを振り返ると、視野が狭くなっていたと強く感じます。幸い私は逃げることを選んできましたが、悲しい思いをしている人はたくさんいると思います。」

「私には厳しいけれど子どもには優しいから」「お金のこともあるし、何より子どもがかわいそうだから」と思い、我慢している人もいるかもしれません。ですが、「自分にはひどい夫でも子どもには良い父親」なんてありません。

### 菊池市ひとり親の会

ひとり親家庭の生活の安定・向上を目的に活動。さまざまなイベントを開催し、交流を深めています。

菊池市ひとり親の会  
LINE@登録はこちら→  
問い合わせはLINEから。



支援活動の一環として子ども食堂も行っている

「大切なことは今の気持ちを尊重し、本人に決めてもらうこと。本人の人生すべてをサポートできないので、自立支援を兼ねて、自ら電話をかけた話をしてもらっています。いろんな機関があるので、それぞれの役割でできることを皆さんと協力して進めていきたいですね。信頼できる大人と出会うことが解決につながります。私たちもそういう存在になれば嬉しいです」

### 笑顔のために 前へ進んでほしい

「このままだと子どもにまで危険が及ぶんじゃないか」と思い、夫から逃げ出すことを決めました。子どもと実家やホテルを転々としたが、夫に見つからないか、すごく怖かったことを覚えていきます。母に協力してもらいながら離婚の準備を進め、2年かかりましたがなんとか離婚することができました。

### 自分だけでなく 子どものために

ある時、「このままだと子どもにまで危険が及ぶんじゃないか」と思い、夫から逃げ出すことを決めました。子どもと実家やホテルを転々としたが、夫に見つからないか、すごく怖かったことを覚えていきます。母に協力してもらいながら離婚の準備を進め、2年かかりましたがなんとか離婚することができました。

知ってた。怖くて押し入れに隠れていたよ。ごめんね」。3歳だった子どもが当時のことを覚えていたのはとてもショックでした。子どもが暴力を目撃していなくても、家庭内の緊張感や私を感じている恐怖、不安は子どもに伝わっていたんだと思います。

あのまま留まっていたら、子どもも心を大きく傷つけていたかもしれない。子どものためにもあの時、逃げ出す決断ができて本当に良かったです。

### 周囲の小さな行動が支えに

私がひとり親の会で会員をサポートできているのは、あの時に決断することができたからだと思います。本人だけで解決することは難しい問題です。

当時の私のように、相談すると迷惑になると考えている人もいます。隣にいる誰かの心は悲鳴をあげているかもしれません。もし気になる親子がいたら、挨拶や世間話だけでもいいので声をかけてあげてほしいですね。そんな小さな行動が支えになります。

### 熊本で活動するNPO法人

#### 本人の意思に沿った自立支援を

「この方法しか選択肢がない、と思っている人がとても多いです」と話すのは、熊本市を中心にDVや虐待に関する相談活動を行っているNPO法人代表の菊池さん（仮称）。「被害を受けている人は視野が狭くなっていて、専門機関に相談できていません。何に困っているのか聞き取り、弁護士や行政など必要な機関と連携し問題の解決につなげていきます」と続けます。

10年以上前の話ですが、私は夫からDVを受けていました。殴られたり、言葉の暴力を受けたり、物を投げつけられて怪我をしたこともあります。同居していた義理の両親から夫への注意はなく、むしろ「怒らせる原因を作ったあなたが悪いのでは」と言われ、周りに味方がいませんでした。携帯電話も持たせてもらえなかったもので誰にも相談できない日々が続いていました。

一度だけ、健診の時に子どものことを保健師に相談しました。心配した保健師が家に様子を見に来てくれましたが、そのことで家族

## 子どものために 決断できて良かった

松本美幸さん

Scene 2

当事者の声

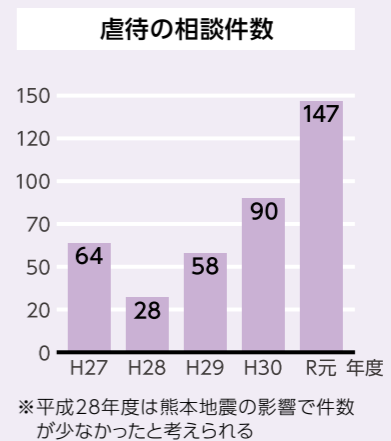
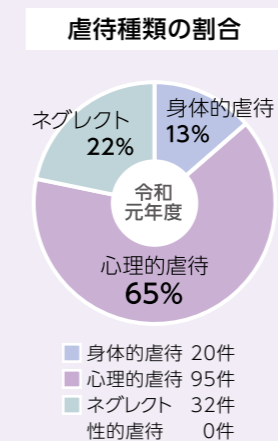
被害を受けたとき、母は、子は何を思ったのでしょうか。そして、当事者や周囲の人たちはどのように向き合ったのでしょうか。

過去にDV被害を受け、現在は菊池市ひとり親の会の代表を務める松本美幸さんに話を聞きました。

### 周囲からの孤立

### データから見る市の現状

子育て支援課での相談件数はここ数年、年間2500件を超え、児童虐待の相談件数も年々増えています。





# 簡単には癒やせない心の傷 だから早期発見が重要なんです

被害を受けた大人や子どもへの影響は大きく、特に子どもの脳に深刻な影響を与えることが分かっています。長年、女性相談員として相談業務に携わってきた全国婦人相談員連絡協議会会長の松本周子さんに話を聞きました。

## 大きな影響を受ける 子どもの脳

被害を受けた子どもは強い恐怖感に襲われ、その記憶は簡単には消えるものではありません。身体的虐待よりも面  
前DVなどの心理的虐待の方が脳への影響は大きく、ダメージは約6倍になるとい  
研究もあります。

目に見えなくても、子どもに影響がないわけではないんです。今は症状が出ていなくても、後から精神疾患が分かった事例もあります。被害を受け続けた子どもはコミュニケーションの取り方が分か

らなくなり、暴力で解決することを覚えてしまふ、逆に暴力を受け入れるようになる、といったことも報告されています。

## 暴力の連鎖を断ち切る

児童虐待やDVは「暴力を再生産する」ことにつながってしまふ。暴力の連鎖は早期に断ち切らなければいけません。妻に暴力を振るう夫の64・5%が子どもを虐待している、DV被害者のうち68・2%が子どもへの虐待の経験がある、という調査結果もあります。

DVという行為が子どもへの心理的虐待に加え、子ども自身への身体的虐待、ひいては悲惨な事件につながる恐れも指摘されています。

## 早期発見・早期治療を

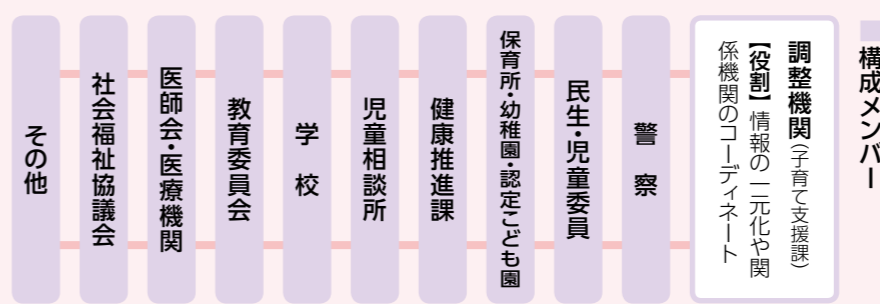
DVの被害を受け続けると判断力が低下し、孤立してきます。そのため「自分に原因があるから怒鳴られる」暴力を振るわれるのは自分だけだ」といった考えに陥る人がとても多いです。この状態では適切な判断ができず、自ら解決につなげることはとても難しいと実感しています。大



全国婦人相談員連絡協議会会長  
松本周子さん(水俣市)

地域ぐるみで児童虐待やDVなどを防止するため、地域の医療・保険・福祉・教育などの関係機関が連携。情報交換や支援方法の検討などを定期的に行っています。

## 要保護児童対策及びDV防止地域協議会とは



さくらんぼハウスで行われたイベントのヨガ教室



## Scene 4 地域で支える

# この場があるから、優しく接することができる

孤立し、視野が狭くなる前に、自ら動くことで今を変えることが出来ます。不安や悩みを相談でき、乳幼児とその保護者が気軽に集い交流できる場として、地域子育て支援拠点が大きな役割を担っています。

## 親子の居場所の1つとして

菊池さくら保育園では、親子が集える場として「さくらんぼハウス」を運営。イベントを定期的に開催し、親子がいつでも来れるように、日頃から施設を開放しています。「親子だけで子育てに

限界がきてしまうこともあります。社会から孤立して、子育てにならないように、外との関わりを持つことが大切です。親子の居場所の1つとして利用してもらいたいです」と本藤潔園長(戸豊水)は話します。

「児童虐待やDVは孤立した家庭で起きることが多く、外からは見えない家庭内の陰の部分があります。親子への会話を続け、子どもや親の表情、声のトーンなどに変化はないか様子を見ていく

ことが児童虐待やDVの早期発見、被害の未然防止につながると思っています」と力を込めます。

## 地域になくはない場

支援センターに来る親の中には、結婚を機に県外から引っ越してきた人もいます。知らない土地で、初めての子育ては不安でいっぱい。頼れる人も少なく孤立しがちで



菊池さくら保育園  
本藤 潔園長

す。「ここで話を聞いてもらい、相談することで不安の解消につながり、リフレッシュできています」と話し、ほぼ毎日訪れる親子もいます。「話せる場がないとどうなっていたかわからない」この場があるからこそ子どもや夫に優しく接することができる。子育て支援拠点は、子育て中の親にとって、地域になくはない場として機能しています。

## 市の地域子育て支援拠点

- 【つどいの広場】  
ひだまり(旧聖母幼稚園内)  
☎080(1714)9818  
あいあい(こども健診センター2階)  
☎090(6893)5971  
ひなたぼっこ(七城老人福祉センター内)  
☎090(8916)4666

- 【子育て支援センター】  
さくらんぼハウス(菊池さくら保育園内)  
☎0968(24)3880  
ふ・く・も・と・の・森(福本保育園内)  
☎0968(38)4651  
スマイル新明(新明保育園内)  
☎0968(37)3126

出産を迎えるお母さんやお父さんも利用できます。



カメラの先にはたくさんの笑顔がありました。  
もっと笑顔で溢れるまちになりますように



### 相談窓口や支援

- 児童虐待、DV相談、子どものこと、女性の悩み相談  
市子育て支援課 相談室直通  
☎0968(25)1399
- 女性の悩み相談  
市人権啓発・男女共同参画推進課  
☎0968(25)7210
- 児童虐待  
県中央児童相談所  
☎096(381)4451  
児童相談所虐待対応ダイヤル  
☎189(いちはやく)
- DV相談  
県女性相談センター  
☎096(381)7110  
DV相談全国共通短縮ダイヤル  
☎#8008(晴れば)
- 妊娠・出産・子育ての相談  
「まぐびあ」菊池市子育て世代  
包括支援センター  
☎0968(25)1121
- 子ども食堂  
マザー&チルドレンの会 限府110  
☎090(3192)8550  
ひのくにスマイル食堂 泗水町吉富300-61  
☎090(5943)3331
- 子ども相談  
子ども110番 県福祉総合相談所  
☎096(382)1110

内での暴力をなくすため、出前講座を行っており、関係機関や地域での理解・関心が深まるように取り組みを進めています。

相手との関係を悪化させたくないために連絡をためらってしまう、という声も聞きます。しかし、虐待という行為でSOSを出している場合や連絡をきっかけに親子の悩みに気付く場合もあり、そこから新たな支援につながることもあります。「匿名でも大丈夫です。情報が間違っていないと構いませんので、おかしいなと思ったらすぐ、専門機関へ連絡してください」

**社会全体で問題解決へ**

児童虐待やDVは、行政や支援団体だけが取り組めばいいものではありません。地域での理解が深まることで、被害者が相談しやすい環境を作ることが出来ます。

大切なことは一人一人を尊重すること。悩みを打ち明けてくれるだろうか。分かってくれらるだろうか。不安が常に付きまといまいます。悩んでいる人がいたら、決して否定せず、話を聞いてください。そして、専門機関に相談するように勧めてください。

**あなたは一人じゃない**

被害を受けている人の中には「自分にも悪いところがある」「恥ずかしくて誰にもいえない」と思っている人もいます。暴力の環境にとどまり続ける人は決して少なくありません。ですが、我慢をすることでも自分だけでなく、子どもの人生をもつらいものにしてしまうことがあります。

あなたは一人じゃない。自ら動くことで今を変えることができます。勇気を出して一歩、踏み出してみてください。あなたを、周りの人を笑顔にするために。

### Scene 5 社会で見守る

## 大切なあなたの笑顔を守りたい

児童虐待やDVを防止するためには正しい知識を持ち、地域や周りの人たちのサポートが大切です。問題解決のために私たちができていることを考えました。



ハロウィンイベントは来場者が300人を超えた(関連36頁)

**ほっと一息つける場所に**

富の原地区にある閑静な住宅街が10月11日、たくさんの人で賑わいました。来場者の目的は「ひのくにスマイル食堂」が開催したハロウィンイベント。代表の茶木谷与和さんは子ども食堂の運営や地域の交流の場を作るために定期的にイベントを行っています。「食事を提供するだけではなく、子育て中の親子や一人暮らしのお年寄りなどが気軽に遊びに来れる場所です」と話します。

「ここに来れば誰かに会える。多世代の人に来てもらって、いろんな話ができる。ほっと一息つける場所にしたいです」

「どこからが児童虐待、DVに当てはまるか、という考え方は間違っています。児童虐待もDVも人権問題なんです」と話すのは市子育て支援課の内田靖仁保健師。「本人が正しい知識を身に付けるのはもちろんですが、周りの人たちもきちんと理解してほしい。社会の無関心が被害を生み出す原因の一つになるんです」と続けます。市では家庭

**無関心が被害を生むことも**

「発見が難しく、心に大きな影響を与える児童虐待やDV。被害をなくすためには、正しい理解と早期発見・早期治療、そして地域全体で問題解決を進める必要があります。」



子育て支援課 内田靖仁 保健師